



横浜市立一本松小学校

9月号

学校だより

横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透
令和5年8月28日

「私たちの命は私たちが守る」

校長 高桑 透

長い夏休み、そして猛暑の夏休みが終わりました。熱中症アラートが毎日のように出される日々の中で、子どもたちが元気に過ごすことができているのか心配になりました。5類に変わった感染症についても手放して安心できるという状況にはなっていません。集中豪雨による水害、干ばつと気温上昇による山火事など、世界中で異常気象に悩まされています。世界中の人々が安心して生活できる、そんな世の中になってほしいと強く思います。

2023年9月1日は、関東大震災が起こってちょうど100年となります。東京、神奈川を中心とする南関東で大きな被害を出しました。主に火災により、10万人以上の方が亡くなるとともに、東京や横浜では6割の家屋が破損し、多くの住民が家族と住居を失いました。感想大震災以降も、1995年1月17日阪神淡路大震災、2011年3月11日東日本大震災と、他にも大きな地震が何度か起こっています。

学校では、このような大きな地震発生などに備えるために、避難訓練を行っています。いざというときに、自分の命を守ることができるか、また周りの人たちの命も守ることができるか、そのためにどうしたらよいかについて、しっかり学んでいます。特に毎年防災の日には、総合防災訓練として横浜市立学校全校で大地震発生を想定した訓練を行います。

また、震災時の避難場所となる地域防災拠点訓練もこの時期に行われます。一本松小学校地域防災拠点訓練は、9月3日(日)午前中に管理運営委員のメンバーで行われます。猛暑や感染症の状況より、地域住民の皆さんに参加していただく訓練については、見合わせましたが、このような備えをしっかりとやっていただいていることは、本当にありがたいことです。今後も定期的に防災拠点訓練は計画されていますので、お子さんと一緒にぜひ参加してください。

さらに、9月2日(土)には、日本丸メモリアルパークにて防災啓発イベントも行われます。過去の地震からの防災の重要性を学ぶとともに、必要な行動・備えについての学びを深める絶好の機会となります。いつ何が起こるかわからないこれからの時代を生きていくためにも、お時間のあるはぜひ足をお運びください。

よこはま地震防災市民憲章〔行動指針〕

備え

- 1 自宅の耐震化と、家具の転倒防止をしておきます。
- 2 地域を知り、地域の中の隠れた危険を把握しておきます。
- 3 少なくとも3日分の飲料水、食料、トイレバックを備蓄し、消火器を設置しておきます。
- 4 家族や大切な人との連絡方法をあらかじめ決めておきます。
- 5 いつとき避難場所、地域防災拠点や広域避難場所、津波からの避難場所を確認しておきます。
- 6 家族ぐるみ、会社ぐるみ、地域ぐるみで防災訓練に参加します。

発災直後

- 1 強い揺れを感じたら、命を守るためにその場に合った身の安全を図ります。
- 2 怖いのは火事、揺れが収まったら速やかに火の地末を行います。
- 3 近所のお年寄りや障害者の安否を確認し、余震に気をつけながら安全な場所へ移動します。
- 4 避難する時は、ガスの元栓と電気のブレーカーを落とし、備蓄食料と常用薬を持って行きます。
- 5 断片的な情報しかない中でも、噂やデマに惑わされないよう常に冷静を保ちます。
- 6 強い揺れや長い揺れを感じたら、最悪の津波を想定し、ためらわず大声で周囲に知らせながら高いところへ避難します。

避難生活

- 1 地域防災拠点ではみんなが被災者。自分にできることを見つけて拠点運営に協力します。
- 2 合言葉は「お互いさま」。拠点に集まる一人ひとりの人権に配慮した拠点運営を行います。
- 3 避難者の半数は女性。積極的に拠点運営に参画し、女性の視点を生かします。
- 4 子どもたちの力も借りて、一緒に拠点運営を行います。
- 5 消防団員も拠点運営委員も同じ被災者。まずは感謝の言葉を伝えます。
- 6 「助けて」と言える勇気と、「助けて」に耳を傾けるやさしさを持ちます。

自助共助の推進

- 1 あいさつを手始めに、いざという時に隣近所で助け合える関係をつくります。
- 2 地域で、隣近所で、家庭で防災・減災を学び合います。
- 3 子どもたちに、大地震から身を守るための知恵と技術、そして助け合うことの大切さを教えます。
- 4 横浜はオープンな街、訪れている人みんなに分け隔てなく手を差し伸べます。
- 5 私たち横浜市民は、遠方の災害で被災した皆さんにもできる限りの支援をします。

横浜市防災教育の指針より抜粋